

今週のビルマのニュース
2009年7月10日【0927号】

裁判きょう再開 事務総長訪問にはノーコメント

・アウンサンスーチー氏の裁判は、スーチー氏側の証人をめぐり高裁と最高裁が判断を出す間、本案に関する審理が中断していたが、10日に特別法廷での審理が再開する。スーチー氏側の証人が証言する予定。弁護団は8日にスーチー氏と会い、最終弁論の方針などについて話し合った。このとき弁護団は国連事務総長の訪問についても説明したが、氏からコメントはなかったという（9日付ミジマ）。

【背景】軍政は5月、突然訪れた米国人男性を家に入れたことが来客を禁じる自宅軟禁の規則に違反したとして、スーチー氏を起訴した。起訴の背景には、来年予定の総選挙を前に国民の支持を集める氏の拘束期間を延長したいという軍政の政治的動機があり、有罪判決（最長禁固5年）が出るとの見方が大勢。

潘基文国連事務総長のビルマ訪問、特段の成果なく

・潘基文国連事務総長が3日・4日にビルマを訪問し、軍政トップ・タンシュエ將軍などと会談したが、民主化改革に向けた動きに直接はつながらなかった。事務総長は民主化指導者アウンサンスーチー氏との面会も求めたがタンシュエ將軍に拒まれた。事務総長は訪問後、スーチー氏との面会が許されなかったことに「深く失望した」と述べた。3日に国民民主連盟（NLD）幹部らとも会ったが、面会時間はわずか10分間で、NLD側は不満を表明した（6日付APほか）。

新モン州党幹事長が来日 国会議員と懇談

・モン民族の主要な政治団体、新モン州党（軍政と停戦協定を結んだ団体の一つで、現在も武装している）のナイフンサー幹事長が来日し、8日に中川正春衆議院議員らと懇談会を持った。外務省も出席した。軍政は2010年の実施を計画中の総選挙を前に、新モン州党を含む停戦各団体に対し、それぞれの軍事組織を国境警備部隊として再編成するという事実上の武装解除を行い、総選挙の実施に協力するよう要求している。しかし新モン州党は、新憲法の内容が改善されない限り2010年総選挙への支持も参加もしないと表明し、「軍政が新憲法を改正せずに総選挙を強行するなら民族居住地域で内戦が再発するかもしれない」と警告している。ナイフンサー幹事長は、「内戦の再発を防ぐためにも、日本政府には2010年総選挙の実施を支持する前に、民主化勢力や民族代表の意見を取り入れて新憲法の内容を見直すよう軍政に働きかけてほしい」と述べた。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など
新たな発表はなし。

イベント

・在日ビルマ人共同行動実行委員会 国連事務総長に対しスーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動（国連大学前、6~10日15~16時）

・ユニセフ・ミャンマーサイクロン報告会「緊急援助から復興支援へ」日本人保健・栄養チーフによるこれまでの活動報告（ユニセフハウス橋本記念ホール、15日18時半）★要申込

・日本ビルマ救援センター月例ビルマ問題学習会
講師：久保忠行（神戸大学大学院）（大阪ボランティアセンター、17日19時〜）

・ロヒンギャ民族集団訴訟（難民不認定処分の取消、退去強制令発付の取消／無効確認を求める）原告本人尋問（東京地裁709号法廷、21日13時半〜）

・“難民と一緒に暮らせる日本に！”ビルマの現状と少数民族ロヒンギャ難民 講師：根本敬（上智大学外国語学部教授）主催：人権・正義と平和連帯フォーラム、アムネスティ福岡グループ（福岡市立青年センター5F、28日13時半〜）

・日本ビルマ救援センター特別講演会「アウンサンスーチーの「非暴力主義」とタイ国境で戦う民主化闘士たちの解釈」講師：根本敬（阪南大学サテライト中小企業ベンチャーセンター、8月3日19時〜）

注目記事（英語）

・スーチー氏宅に侵入したイエトー氏の正体に迫る（ニューズウィーク誌、6月22日号）
<http://www.newsweek.com/id/201938>

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ
ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165